

## 【一般演題3】 第12席

## 「『黄帝内經』における三焦の諸概念」

京都 中川 俊之

「三焦」は、はやくも前漢の司馬遷『史記』扁鵲倉公列伝中にみられ、現在に至るまで多くの議論を生んできた概念である。中国の伝統医学において重要視されてきたにもかかわらず、多義的であるため、概念に混乱の生じたまま用いられているのが現状であろう。

概念の混乱をなくすためには、「三焦」をあらわす意味の各々を、経文にそって明確に整理しなければならない。「三焦」の意味を大別すると、

1. 上焦、中焦、下焦の総称
2. 蔓府の名称
3. 経絡の名称

等を挙げることができる。これと『素問』『靈樞』中の「三焦」に関わる全条文を照らし合わせて、条文の検討と整理を行い、「三焦」という語に含まれている個々の意味とその扱い方を明確にしたいと思う。